

現代のガリレオ処分を許すな！

自由に科学的真実を 追求・研究できる環境を 日本に

4人の日本人がノーベル賞を受賞し、日本中が湧いたのは記憶に新しいと思います。しかし、4人のうち2人はアメリカに移住してからの業績であり、科学者が世界に通用するような一流の研究に没頭できる環境を日本に整えることが急務となっています。そんな中、そのような願いと逆行するような「現代のガリレオ・ガリレイの抹殺」とも言える残念な事件がありました。

筑波大学教授でプラズマ研究センター長を務めていた長照二教授が昨年3月にその職を解任され、9月には筑波大学より懲戒解雇の処分を受けました。また、彼の研究グループの3名が10月に大学から停職4カ月から1カ月の処分を受けました。その理由はこの研究グループが執筆し権威ある科学誌“Physical Review Letters”に発表した論文に「データの改ざん」があったとするものです。

しかしながらこの事実については、この間、長教授が「改ざん」でないことを別の論文で明らかにするとともに、世界のプラズマ研究者からも同様の意見と大学の措置に対する抗議の声が寄せられています。

それにもかかわらず大学は懲戒解雇・停職を強行しました。長教授はこれに対して解雇撤回の提訴を起しました。

筑波大学の今回の処分には多くの疑問・疑惑があることから、私たちは長教授はじめ彼の研究グループを支援して、処分撤回・原職復帰・名誉回復を勝ちとるため活動を始めました。

科学的な真実を追究する科学者が、理不尽な圧力で葬り去られよ

うとしています。それはあたかも真実を曲げることを強要され「それでも地球は回っている」とつぶやいたガリレオ処分の現代版です。私たちは今「現代のガリレオ処分を許すな！」を合い言葉に運動をすすめます。皆様のご支援をお願いします。

裁かれるべきは筑波大現執行部 —米国物理学学会誌の抗議声明—

12月2日、世界でもっとも信頼性が高いといわれるアメリカ物理学学会の機関紙である“Physics Today”誌上で本事件に関する筑波大学に対する公式な抗議声明が掲載されました。声明では事件の経過に触れた上で、専門家の立場から、長教授らの研究グループが「故意にデータを改ざんしていないことは明白」と述べられています。さらにこの間、専門家からは、長教授の主張に関する科学的な信頼性についての支持表明が、少なくとも4通は筑波大学長に届けられました。しかし、これらの意見も全て無視されたため、「筑波大学が当該分野の専門家の意見に関心を払わない」と、抗議しました。「我々は、筑波大学がとった、長教授が大学から解雇されることになっ

長教授らを支援する会ニュース

NO.2

■ ----- 発行人

(仮称) 長教授らを支援する会準備会

■ ----- ホームページ

日本語版 <http://cho-teruji.org>

英文版 <http://www.cho-teruji.net>

連絡先：神奈川県高等学校教職員組合内



● 第1回口頭弁論期日

水戸地裁土浦支部

2008年12月1日

● 第2回口頭弁論期日

水戸地裁土浦支部

2009年1月19日

た一連の行動は、科学研究分野における検閲の一形態にあたるものと懸念し、「適切に構成された国際的な科学委員会がこのような筑波大学の行動について調査すべき」と結んでいます（抗議文全文をHPに掲載 <http://cho-teruji.org>）。

国際的に見れば「裁かれるべきは筑波大学」だということが明白になってきています。筑波大学はこうした国際的な世論に耳を傾け、即刻長教授らへの処分を撤回し、原職への復帰、名誉回復をはかるべきです。

世界各国の多くの専門家から M副学長に諫言

今回の処分に一貫した積極的関与が認められるM副学長が“Physics Today”誌にこれを出版しないよう依頼した事実、言論の自由・学問の自由を脅かすに等しい文書を送付していたことが明らかになりました。

